

単元の評価規準表

<本単元のねらい> 伴って変わる二つの数量の存在に気づき，変化の様子を表や折れ線グラフに表して調べることができる。

単元の評価規準		評価場面（方法）	主な評価の観点	努力を要する状況の児童への手立て
<p>【算数への関心・意欲・態度】 身の回りの事象から二つの数量の関係について表やグラフを用いて進んで調べ，きまりを見つけようとする。</p> <p>【数学的な考え方】 二つの数量の間にどんな関係があるか，表からきまりを考える。</p> <p>【数量や図形についての表現・処理】 伴って変わる二つの数量の関係を表に表したり，グラフに表したりすることができる。</p> <p>【数量や図形についての知識・理解】 伴って変わる二つの数量の関係の調べ方や表やグラフの読みとり方を理解している。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> 四つの花びんに水を一定量ずつ入れたときの水のかさと伴って変わる量を見つける場面（観察・発言） 	<p>関： 四つの花びんに水を一定量ずつ入れたときの水のかさと伴って変わる数量を見つけようとする。</p>	<p>伴って変わる数量に気づきにくい児童には，花びんを持たせてみたり中を見せたりしながら変わったことについて気付かせていく。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 花びんに水を一定量ずつ入れたときの水のかさと伴って変わる深さについて，変化の様子を表や折れ線グラフに表す場面（ノート） 	<p>表： 花びんに水を一定量ずつ入れたときの水のかさと伴って変わる深さについて，変化の様子を表や折れ線グラフに表すことができる。</p>	<p>折れ線グラフに表せない児童には，グラフ枠を正確に書いたり，1目盛りあたりの量を考えさせながら 縦軸と横軸の使い方を理解させたりしていく。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> 花びんに水を一定量ずつ入れたときの水のかさと伴って変わる重さについて，表やグラフから変わり方をとらえる場面（発言・観察） 	<p>考： 花びんに水を一定量ずつ入れたときの水のかさと伴って変わる重さについて，変化の様子を表や折れ線グラフに表して変わり方をとらえる。</p>	<p>一定量の増加に気付かない児童には，数値を分かりやすい理想的なものにしたり，定規を当ててグラフの傾きが変わりがないことに気付かせていく。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 変化の様子を表や折れ線グラフに表して変わり方を調べる場面（観察・ノート・発言） 	<p>考： 花びんに水を一定量ずつ入れたときの水のかさと「後どれだけ入るか」という残りのかさについて，変わり方のきまりを考える。</p>	<p>入れたかさと「後どれだけ入るか」という残りのかさの関係に気付かない児童には，花びんに入る全体のかさを考えながらゆっくりと気付かせていく。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量について，関係をまとめる場面（まとめ） 	<p>知： 伴って変わる二つの数量について，関係を理解している。</p>	<p>伴って変わる二つの量の関係に気付かない児童には，グラフや表に表したりしながら気付かせたい。</p>

